

平成13・14年度

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域

熊本県 熊本市 (センター校：黒髪小学校)

目次

1 熊本市の概要

児童生徒数

地域の特色

帰国・外国人等児童生徒の実態

2 センター校の概要と指導体制

センター校の概要

日本語指導を受けている母語別児童生徒数

センター校での指導時間及び指導内容

3 教育国際化推進連絡協議会の概要

構成員

年間活動状況

協議会設置の効果

4 具体的な取り組み内容とその成果等について

連絡協議会の活動事例より

具体的な取り組み及び作成資料など

教育相談員の派遣状況及びその効果

帰国・外国人児童生徒を中心にすえた国際理解教育の推進

1 熊本市の概要

児童生徒数 (平成14年10月1日調査)

	小学生(名)	中学生(名)	計(名)
海外帰国児童生徒(海外に1年以上在留)	58	22	80
中国等帰国児童生徒数	23	16	39
日本語指導が必要な外国人児童生徒数	20	12	32

地域の特色

本市は、九州の中央部、県の西北部に位置し、肥後54万石の城下町として発展してきた。総人口約67万、平成8年度より中核市として制定され、九州では福岡に次ぐ政治・経済・文化の中心都市として発展し続けている。

市内には、国立大学をはじめとして多くの大学があり、外国人教官や留学生の数も多い。また、国際化の進展により、外国人世帯も増加してきている。それにともない外国人児童生徒も増加の傾向にある。また、中国帰国者の呼び寄せ家族として3世にあたる児童生徒も次々に編入している。

帰国・外国人等児童生徒の実態（学校生活への適応状況、日本語能力の程度等）（平成15年度）

本市における外国人児童生徒の編入は、年々増加している。日本語指導が必要な児童生徒の国籍別人数では中華人民共和国が一番多く、約70%で、その他はフィリピン、韓国、ジンバブエ等となっている。短期滞在のケースや永住し国籍を取得するケースなど、それぞれの来日事情・国籍・年齢・家庭状況は多様化してきており、日本語指導だけでなく、一人ひとりに合わせたきめ細かな適応指導、生活指導が必要である。

また、中国帰国児童生徒は日本国籍を取得し永住するものも多く、特に日本語学習にも熱心に取り組む。しかし、中学生は来日後1・2年で高校受験の時期を迎えとても苦労している。日本語指導をする中で、様々な関係諸機関と連携しながら、学力保障・進路保障についても考えていかねばならない。

2 センター校の概要と指導体制

センター校の概要（平成15年度）

熊本市立黒髪小学校	熊本市黒髪2丁目2番1号
学校長 深水 征也	児童数 513人(17学級) 職員 39人
電話番号 096-343-0178	FAX 096-341-1387
ホームページアドレス kurokamies@t.kumamoto-kmm.ed.jp	
交通 JR利用：熊本駅下車 市バス：熊本駅前乗車（交通センター行き）交通センター下車 交通センターにて乗り換え（子飼方面行き）子飼橋下車 徒歩3分	

日本語指導を受けている母語別児童生徒数（平成15年5月15日現在）

	中国語	カカオ語	韓国語	シヨナ語	計
小学生	8(2)	5	2	1(1)	16(3)
中学生	15	0	0	0	15
計	23	5	2	1	31(3)

センター校の在籍児童3名、他校の児童・生徒28名。

センター校での指導時間および指導内容（平成13・14年度）

ア センター校在籍児童の場合、適応場面を通しての初期指導を主にしながら、週あたり5時間から10時間日本語教室での個別指導を行っている。初期指導の後は、教科学習につながる日本語指導と、教科書を使っての指導をおこなう。週あたり4時間から5時間程度指導する。

イ 他校からの通級生のうち編入後間もない児童生徒には、センター校で毎日2時間、週8~10時間程度集中的に初期指導を行う。指導期間はおよそ2ヶ月程度であるが児童生徒の実態により柔軟に対応する。

初期指導が終了した通級生には週1~2回（2~4時間）の指導を行う。

ウ センター校への通級が困難な児童生徒の場合、在籍校において指導協力者またはセンター校指導者が原則として週1~2回（2~4時間）派遣されて指導する。

3 教育国際化推進連絡協議会の概要

構成員（平成15年度）

	名前	所属名等	職名等
会長	深水 征也	熊本市立黒髪小学校	センター校校長
副会長	森下 吉郎	熊本市託麻原小学校	在籍校校長代表
委員	村上 京子	熊本市教育委員会	指導課長

委員	永田 清一	熊本市教育委員会	指導主事
〃	馬場 良二	熊本県立大学	教授
〃	岩谷美代子	熊本大学留学生センター助手	指導協力者
〃	尾形 友子	学習塾講師	指導協力者
〃	横山 雅子	元青年海外協力隊日本語教師	指導協力者
〃	高松やよい	日本語学校講師	指導協力者
〃	庄山 好子	中国語相談員 中国帰国自立指導員	カウンセラー
事務局長	片山 良子	熊本市立黒髪小学校	センター校担当者
事務局	竹嶋 康子	熊本市立黒髪小学校	センター校担当者

活動状況 (平成 14 年度)

NO.	名 称	月 日	活 動 内 容
1	連絡会	4月10日	・編入児童生徒の確認 ・指導担当など
2	連絡協議会	5月16日	・平成14年度の指導体制について ・日本語指導開講式
3		7月22日~7月25日 8月26日~8月30日	・夏休み日本語教室(前期) ・夏休み日本語教室(後期)~県立大主催
4	保護者会	7月24日	・保護者からの質問や要望を聞く。
5		7月26日	・夏休みレクレーション
6	連絡協議会	8月29日	・編入生の把握と2学期の指導体制の見直し
7		10月25日	・日本語指導の現状説明と問題点 ・在籍学級担当者会
8	連絡協議会	1月17日	・本年度の反省と今後への志向
9		2月28日	・日本語発表会と閉講式

協議会設置の効果

- ・熊本市内の外国人児童生徒及び日本語指導を要する児童・生徒の実態把握が正確にできるようになった。
- ・定期的に、センター校担当者と指導協力者が情報交換をすることによって、よりよい指導方法について研修、協議ができるようになった。
- ・連絡協議会主催の行事(開講式、夏休み日本語教室、レクレーション、在籍学級担当者会、文集作成、研究報告書作成、日本語発表会・閉講式など)が協力してできた。これらを実施することで学校と指導者との連携、日本語指導を受ける子ども同士の連携、保護者との連携をもつことができた。

4 具体的な取り組み内容とその成果等について

連絡協議会の活動事例より(平成14年度)

夏休み日本語教室

・前期日本語教室(連絡協議会主催):夏休みに入ってから、センター校で前期の日本語教室を開いた。参加した児童・生徒23名は4つに分かれ、午前中2時間、センター校指導者のもとグループ学習をした。

今年は初めて、在籍校の担任の先生方にもご協力をお願いし、日本語指導の様子を見てもらったり、実際に指導に入っていたりした。のべ18名の先生方の熱心なご指導に、子どもたちも大喜びだった。特に、中学校の教科指導では担任の先生の専門性が生かされ効果的だった。また、子どもたちの現状を理解してもらうよい機会になった。

・後期日本語教室(県立大主催):県立大学の日本語学科の学生によって夏休みの最後の週に開かれた。

ここでは、6つのグループに分かれて、それぞれの課題に真剣に取り組むことができていた。

6週間ほどの長い夏休みだが、今年は前期と後期の二つの日本語教室で日本語学習に対する意欲を少しでもつなげることができたようだ。また、日々、子どもたち同士の結びつきも深まっている。

保護者会

夏休みの日本語教室開催中の午後7時30分より、日本語指導を受けている児童・生徒の保護者会を開いた。保護者8名と担任の先生2名、教育委員会、センター校校長、日本語指導担当者、中国語相談員など計19名が参加した。保護者からは、友だちづくり、母語保持、中学卒業後の進路、高校入試など、悩みや疑問や思いを直接聞くことができ、問題を共有することができた。初めての試みで、保護者が参加しやすいようにと夜の会合にしたが、参加があまり多くなかった。

レクリエーション

前期の日本語教室が終わった翌日の7月26日(金)、児童・生徒26名、家族8名、担任の先生・指導者12名、計46名がセンター校に集まり、体育館でゲームをしたり、カレーやフルーツヨーグルトづくりをしたりして楽しく過ごした。子どもたちは勉強したときよりもさらに仲良くなる様子がみられた。

在籍学級担当者会

10月17日(木)3時からセンター校で日本語指導在籍学級担当者会を開いた。23名の先生方の中には、校長や教頭の参加もあった。連絡協議会からは、教育委員会、連絡協議会副会長、県立大学教授、指導協力者などがいっしょに出席し、有意義な会を持つことができた。熊本市の日本語指導についての概要説明の後、小学校と中学校からそれぞれ代表の先生方に実践発表をしてもらった。それぞれの学校において、外国からの児童・生徒をあたたく迎え、いろいろな配慮がなされていることがわかった。

日本語指導を受けている児童生徒の作文集(みんなともだち)

一昨年、昨年に続き、日本語指導を受けた外国人児童生徒の作文集 第3号 が出来上がった。児童・生徒のプロフィールと学習した日本語を使っの作文や日記が収められている。担任の先生、保護者、日本語指導担当者からの励ましの言葉が添えられている。

具体的な取り組み及び作成資料など

(平成13年度)

- ・ 「すぐ使える日本語」(中国語・英語・韓国語)作成
- ・ 初期指導入門期「はじめの5課」(中国語・英語・韓国語)作成
- ・ 「外国人児童生徒等編入時面談について」
- ・ 「外国人児童生徒等の受け入れにあたって」
- ・ 「在籍校での外国人児童生徒等への学習支援について」
- ・ 「評価について」
- ・ 在籍校担任の実践事例収集

以上は平成13年度 研究報告「外国人児童生徒等とともに」に掲載

- ・ 「学校紹介と家庭連絡文」

(平成14年度)

- ・ 「外国人児童生徒等に関する実態調査」を熊本市立全小中学校117校で実施
- ・ 在籍校担任・大学生ボランティアの協力による「夏休み日本語教室(前期・後期)」の実施
- ・ 「保護者会」と「バザー」の実施
- ・ 日本語指導の授業研究会

- ・ 初期指導用「インタビュー教材」と「ワークシート」作成
- ・ 「教育キャンプ・修学旅行についての説明文」(中国語訳付き)と「貸し出しバッグ」作成
- ・ 在籍校担任の実践事例収集

以上は平成 14 年度 研究報告「外国人児童生徒等とともに」(第 2 号)に掲載

教育相談員の派遣状況とその効果

熊本市で日本語指導を受けている児童・生徒は中国語を母語とする子どもたちが多い。急に環境が変わり、習慣や言葉の違いなどから不安を抱える子どもたちが多く、そんな時、中国語相談員が積極的に関わっている。

- ・ 編入時の受け入れ面談時の通訳および相談
- ・ 家庭訪問のときの同行
- ・ 三者面談を含めた進路相談
- ・ 必要に応じての教育相談

日本語指導担当者はそのパイプ役となり、担任の先生や家庭と連絡を取り、中国語相談員に入ってもらい話し合いの場を設けてきた。中国語相談員は母語を生かし、祖国での経験や日本に来てからの自らの体験を交えて、子どもたちの気持ちや親の気持ちをしっかり受け止め、寄り添って、問題解決にあたっている。

帰国・外国人児童生徒を中心にすえた国際理解教育の推進

国際交流会

黒髪小 5 年生は、総合学習で国際理解教育の学習をしている。いろいろな国の人々と交流をしたいということで国際交流会を開き、日本語教室の児童・生徒や保護者、協力者が参加した。

実際に、中国、ジンバブエ、アメリカ、韓国の話を日本語教室の児童・生徒やその保護者、協力者などから、身近にいろいろな話を聞くことができていた。

大いちょう祭りの国際屋台

12 月 1 日(日)黒髪小学校で、毎年恒例の PTA 主催による「大いちょう祭り・バザー」があり、今年も人気の「国際屋台」が開かれた。帰国外国人児童の保護者や日本語指導通級生の保護者なども本場の手料理を出品された。

さわやかふれあい集会(平成 14 年度)

2 月、センター校(黒髪小)で、「さわやかふれあい集会」が行われ、その中で、日本語教室から 4 人の代表の子どもたちが母国紹介などの発表をした。勉強中の日本語で上手に話し、センター校のみならず、静かに一生懸命聞いてくれた。これを機会に、日本語教室に通級している子どもたちとセンター校の子どもたちが、もっと仲良くなれることを願っている。